

魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:大久保 知香

所属:オリンピア住吉

記録日: 2016 年 2 月 12 日

キーワード: 自閉症 コミュニケーション SNS

【対象児の情報】

・年齢 24 歳

・障害名 自閉症

・障害と困難の内容

不安感がとても強く、同じ質問を繰り返してしまう。

質問を繰り返す⇒同じ答えが返ってくる⇒関係性の確認(安心を得る)

気になることがあると、次の行動に動けない。

【活動目的】

・当初のねらい

・安心を得るための方法を広げる

・関係性の場を広げる

・受け入れてもらえたという実感を持てる場面をつくる

・実施期間 平成 27 年 5 月～平成 28 年 1 月

・実施者 大久保知香 協同研究者: 福井喜章 晋山久恵

・実施者と対象児の関係 職員と通所者

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

●不安感がとても強く、日常生活に支障が出るほど頻繁に同じ質問を繰り返す。気持ちの不安定さ顕著にみられ、「受け入れてほしい」という強い願いが、「拒否されるのではないか」という不安につながって、通所が安定しなかったり、不適応な行動に出まったりすることがある。

<日常生活>5月～7初旬: 11:30頃来所。15:30の最後まで働く。

●休み時間には職員に質問を繰り返し聞いていた。質問は作業中にも聞いてくれることがあり、答えてもらえないと作業に集中出来ない場面もあった。

●質問は昔の俳優・女優を知っているか、自分が今までに知り合った先生達の言葉づかいや持ち物を聞き、最後は「怒ってますか?」と受け入れてもらえたかの確認をしていた。

・活動の具体的内容

①質問に対し「わからない」との答えしかしてもらえない…「Safari」を使い、検索をするように提案した。

わからない単語がでた時に一緒に検索を試みる。

⇒一方的な質問から、一緒に理解できる質問に変わり、受け入れてもらえたという実感をつくる。

検索の操作を覚えることで、自分で分からないことを検索できるようにしていく。



②家からは電話での質問のため、すぐ不安になり頻繁に電話をしてしまう…「ByTalk for school」の利用。

SNS ツールを使うことでやりとりを振り返ることができ、画像の送信もできる。

電話のできる時間、SNS でやりとりのできる時間を伝えることで、気持ちのコントロールや電話と SNS の使い分けをしていく。また、家での過ごし方の中に電話、SNS だけでなくアプリをして過ごすという時間も作る。

・対象児の事後の変化

①一緒に検索をして、理解してもらえ、共感してもらえると感じてから、質問をする前に検索をしてから質問にくる姿もあった。受け入れてもらえたということが分かると、すぐに同じ質問をしていたのが、同じ質問が減ったり、違う質問がでてくるようになった。

調べ方が分かったことで、質問の際に調べるだけでなく、自分の気になる言葉や人物を検索するようになった。自分で調べることで、自分の中で納得、解決している場面もみられた。

②By Talk での変化

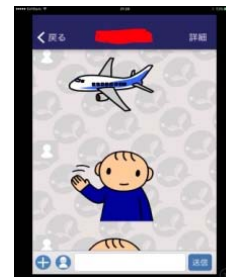


【1】つかいはじめ

スタンプの理解が出来ていないのか、意味のないスタンプを連打で送ってきていた。

■こちらからの問いかけには答えることなく、スタンプが続いていた。(1日1通)

■質問は電話でしか来ず、SNS との関係はなかった。



○来所の際、SNS の使い方を繰り返し伝える

○お菓子を買ってくるが多かったので、お互いに好きなお菓子を言い合う⇒SNS で画像つきにしようと提案。

【2】約1ヵ月

大久保とお菓子の画像の送りあい始める(好きなものの情報交換)

■最初は写真がぶれてしまったり、きれいに撮れなかった

⇒自ら大久保へ写真の撮り方を聞きに来て、自分で家で練習した

■こちらからの問いかけには返信をするようになったが、SNS であったり電話で返信してきたりと、まちまちであった。

○こちらは SNS の質問には SNS で返すようにする。本人にも伝える。



【3】現在

お菓子の画像交換を続けながら質問も SNS で

■質問も SNS で送ってくるようになり、返信を待つように

■待つ間は自ら他のアプリをして気持ちをコントロール(タッチカード・パズル 等)

■電話の回数が減少



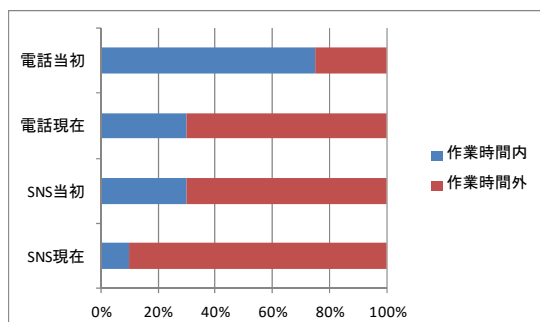
【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

★質問をするときには補足説明が必要だということを学び、画像検索だけでなく、誰のことか、何のことかの説明をいれて質問をするようになった。説明をすれば受け入れてもらえることを実感したのではと考える。

★伝えたいことがたくさんあるが、相手の都合等を考え、電話のできる時間と SNS で送る時間を自分で考えて分けるようになった。自分の興味のあるアプリを操作し習得したことで、SNS の返信を待っている間、電話ができない時間はアプリをして気持ちをコントロールしている。また、家で写真をうまく撮る練習も自らおこない、きれいに撮れた写真は SNS で送ってきている。

・エビデンス(具体的数値など)



電話とSNSの発信時間帯の変化

SNSと電話での関係性がなく、当初は電話での質問ばかりであったが、使い慣れてくると、SNSの回数の割合が増え電話の割合が減ってきた。

質問もSNSで送ってくるようになった。また、電話をしていい時間、メールを送っていい時間を自分でコントロールするようになった。

7月に気持ちが不安定になり、来所が出来なくなった。

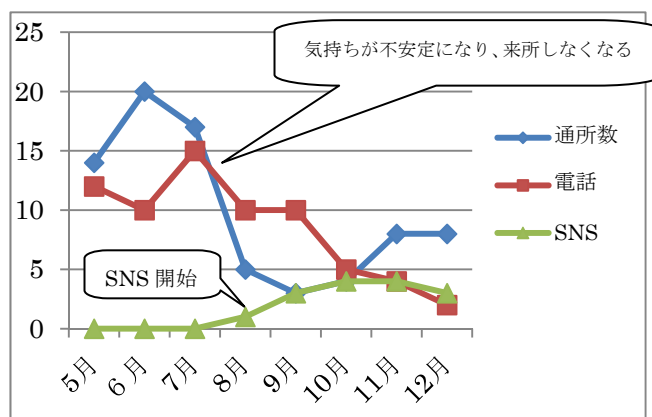
不安定なときは時間を問わず電話をかけてきていた。

電話の内容は「怒ってますか？」や「〇〇さんは私に怒ったんですか？」と自分が受け入れてもらえないのではないかという質問が続いた。

・SNSを始めてから気持ちが落ち着いてきたことと本人から「少しずつでも働けるようにしていきたい」という気持ちが発信され、現在は週2日夕方に来所、作業を始めるようになった。

グラフの通所数は1か月中の回数である。

電話・SNSの発信回数は1日平均の回数である。



電話とSNSの時期別発信回数の変化

・その他エピソード(画像などを含めて)

●他のメンバーと作業をしたくないとのことで、現在夕方(16:00~)週2回、通所をしている。

他のメンバーは15:30に作業が終わるため、作業は本人だけである。はじめは30分の作業時間であったが、自分の気持ちが落ち着いているときは1時間作業をすと言っており、少しずつだが安定して通うことが出来ている。

1月後半ごろから「少人数の人となら作業できます。」という言葉も発信している。今後、他のメンバーとどのように関わっていくのかを取り組んでいく。

また、自分用のiPad購入も考えているようだが、お金がどれぐらいかかるのか、どうすれば買って使えるのかを理解できていないため、説明し理解してもらう必要がある。

2月に入ってから、電話がかかってこない日も増えた。本人は「あんまりかけないように考えたのです。」と気持ちの安定やコントロールがうまくできるようになってきていると感じる。

- オリンピック住吉では作業だけではなく、レクリエーションも定期的に行っている。レクリエーションでは iPad でアプリを使い、楽しみながら操作の方法を学んでいる。他のメンバーと共にすることで、教えあったり、発表しあったりと iPad を媒介としたコミュニケーションをとることができている。
- 2ヵ月に1度地域の障害者施設が集まり、販売会をしている。その際にはアプリを使いレジの練習を行ったり、施設ではどのようなことをしているのかを知ってもらうために iPad を利用している。

